

静岡市 就学に向けて

静岡市発達障害者支援センター「きらり」

動画の内容

(にじいろ子育てハンドブックより抜粋)

①就学までの流れ

- ・就学前フローチャート（年中～小学校入学までの流れ）
- ・令和8年度からの変更点があります。

②小学校の選び方

- ・特別支援学校・特別支援学級・通常学級の違い

③学校見学・体験について

④通級指導教室について

⑤小学校区の変更について



①就学までの流れ（にじいろ子育てハンドブックより抜粋）

12 就学について

静岡市の就学支援（リーフレット）より引用
<https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/2267/230227leaflet.pdf>

1 多様な学びの場

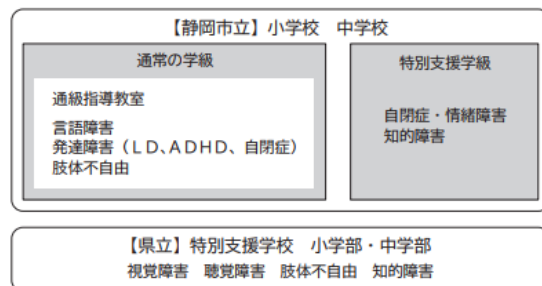
静岡市では、静岡市立の小・中学校に「特別支援学級」「通級指導教室」を設置し、きめ細かな教育を行っています。

特別支援学級には、自閉症・情緒障害学級と知的障害学級があります。自閉症・情緒障害学級では、対人関係やコミュニケーションが苦手な部分をもつお子さんが、知的障害学級では、知的発達がゆりやかで学年相応の学習に学びにくさをもつお子さんが学んでいます。

通級指導教室には、言語通級、発達通級、肢体不自由通級があります。ほとんどの授業を通常の学級で学びながら、一部、障害に応じた特別な指導を受けています。

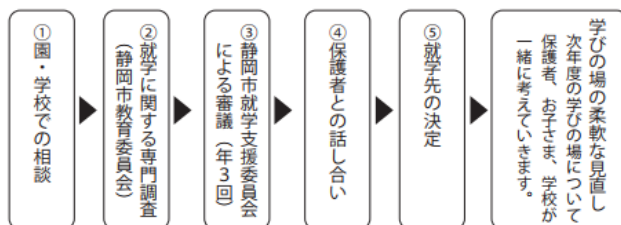
特別支援学級、通級指導教室がある静岡市立の小・中学校についての詳細は、下記のHPをご参照ください。

https://www.city.shizuoka.lg.jp/314_000001_00009.html



2 就学支援の流れ

支援を必要とするお子さんが生き生きと学ぶことができるよう就学先と一緒に考えていきます。まずは園や学校にご相談ください。



通常の学級での支援

通常の学級で個に応じた支援を受けるために、保護者は

- ・ 入学前に、学校に子どもの特性を伝えておく（就学時健診時やその後に、個別で面談してもらう）
 - ・ 入学後に、担任に子どもの特性を伝える
 - ・ 「移行支援計画書」や「園や幼児言語教室と一緒に作ったサポートプラン（個別の支援計画）」を渡す
- などしておくといでしょう。校内でお子さんの特性について情報共有してもらうことで、支援が受けやすくなります。

公立の学校には、「特別支援教育コーディネーター」という役割の先生がいます。特別支援教育コーディネーターは、

- ① 学校内の関係者や関係機関との連絡・調整
- ② 保護者に対する学校の窓口として機能することが期待される役割であり、全ての公立学校に配置されています（兼務あり）。

合理的配慮について

詳しくは「発達障害教育推進センター」HPを参照してください。

<http://cpedd.nise.go.jp/rikai/goritekihairyo/goritekihairyo>

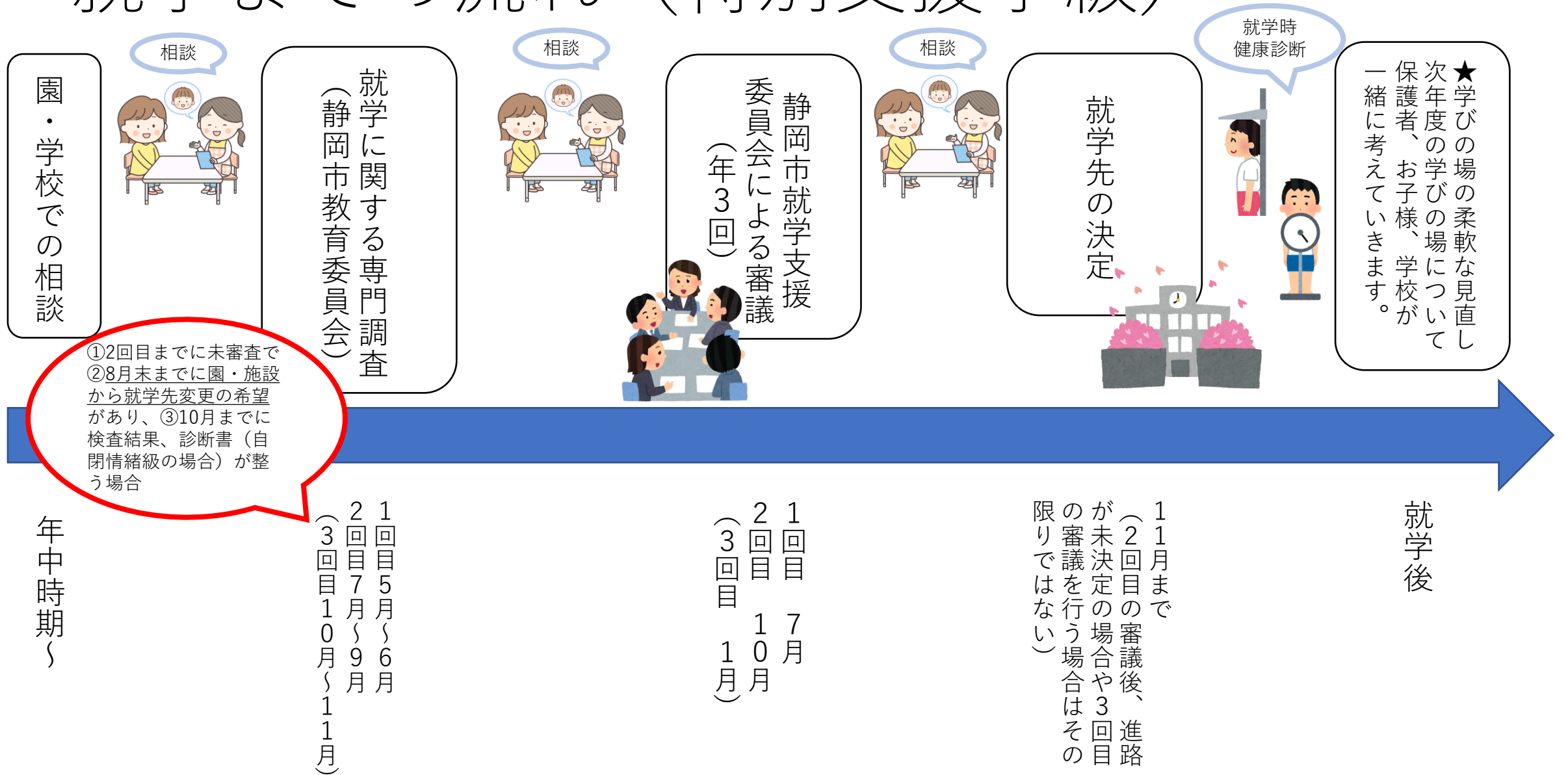
例えば「読み書きの苦手なお子さんに対し、PCでの回答を許可する」「口頭指示での理解が苦手なお子さんに対し、視覚的な支援を付加する」「聴覚過敏のあるお子さんに対し、大きな声で対応することは避け、学級内でも適切な音量で話すよう全体指導する」などさまざまな支援がありますが、学校と話し合って合意形成を図りましょう。配慮が必要と証明されるもの（診断書など）の提出を求められる場合もあります。

お問い合わせ先

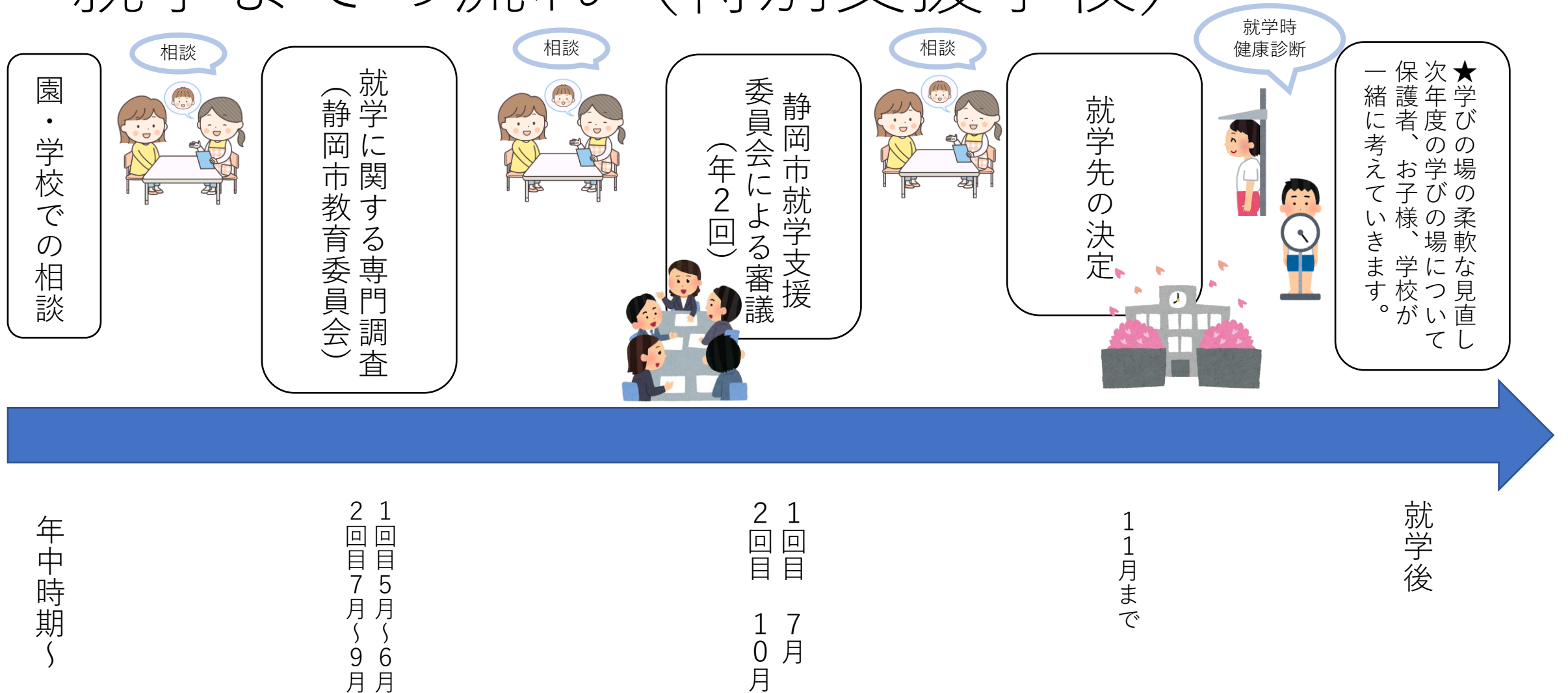
静岡市教育委員会学校教育課 特別支援教育センター
静岡市葵区一番町50番地
電話 054-255-3600



就学までの流れ（特別支援学級）



就学までの流れ（特別支援学校）



②小学校の選び方

重複障害の場合は人数が変わります。管轄する県教委特別支援教育課にご確認いただいた方が良いでしょう。

	通常学級	特別支援学級	特別支援学校
1クラスの人数	35人	8人	6人
障がい別		知的学級/自閉・情緒学級	知的/肢体不自由/病弱/聴覚/視覚
教育課程	各教科 道徳 学級活動 など	各教科 自立活動 など 各教科などを合わせた学習や下学年の教科書での学習なども行う	各教科 自立活動 など 各教科などを合わせた学習や下学年の教科書での学習なども行う
特徴	<p>多人数の中で、一斉指示を理解して行動する。積み上げペースが早い。</p> 	<p>少人数の中で、指示を理解して行動する。 知的：学びの積み上げがゆっくり。障害特性に応じた指導をする（本人のペースに合った学習支援） 自閉情緒：学習内容は通常学級と同じ。障害特性に応じた指導をする（主に集団適応に配慮）</p> 	<p>学びの積み上げは一つ一つとても丁寧。生活スキルの獲得や個別に合わせた支援方法を取り入れている。</p> 

学校・学級別 学習の積み上げイメージ

	通常学級	特別支援学級（通常学級の指導に加えて）	特別支援学校（特別支援学級の指導に加えて）
文字	鉛筆の持ち方は、1年生の最初に指導	必要に応じて、本人に合った補助具の提案→正しい持ち方→正しい文字	指の機能の確認→ピンチ操作やペンの分解などの指の機能トレーニング→補助具の使用→正しい持ち方→正しい文字
身体の動き	跳び箱や鉄棒など学習指導要領に沿った内容	必要に応じて、通常学級の指導からの課題の軽減、成功体験を重視した環境設定	身体の動き、ボディイメージの確認→身体の機能のトレーニング
社会性	集団学習、休み時間の遊び	学級集団単位の小集団活動	必要に応じて大人が間に入り、さらに小さい小集団学習（遊びの指導）を指導時間で設定
日常生活	一斉指導、必要に応じて個別指導	一斉指導・必要に応じて個別指導	日常生活の指導という指導時間の設定、急な予定変更が少ない日課運営（支度、給食、排泄など）

特別支援学級について（にじいろ子育てハンドブックより抜粋）

13 特別支援学級ってどんなところ？

知的障害と自閉症・情緒障害の学級があります。1学級8名が定員とされています。在籍するお子さんの人数、学年構成や特性・課題によって、学級が編成されることが多いです。そのため年度によって学級の人数が変わったりもします。他学年の子と同じ学級になることもあります。

どんな勉強をしますか？

知的障害学級はその子に合った学習内容を、その子に合ったペースで進めます。教科の学習に加え「自立活動」や「生活単元学習（教科領域を合わせた指導）」という学習で、日常生活に必要な技術や社会的なスキルを学びます。

自閉症・情緒障害学級は、基本的に通常学級と同じ内容の学習を、その子の特性や学びやすさを考慮して学びます。

通常の学級とのかかわりがありますか？

個々のお子さんの特性によって無理のない範囲で通常学級との交流があります。朝の会や、みんなと学んだ方が学びがあると判断された教科や単元は通常の学級で学ぶことがあります。また、校内行事も、その子の特性によって通常学級の中で参加することもあります。

体験談



小学校で知的障害学級に進学した保護者の話

息子は3歳のときに自閉症スペクトラムの診断を受けました。私立の幼稚園に入園し加配を受けましたが、不安感が強く、言葉もゆっくりであったので、その先の進路でも何らかの支援が必要だと親の意見は一致していました。

息子を支援してくださっている方々（主治医、幼稚園、幼児言語教室、児童発達支援事業所）に意見を求めました。トイレと着替えの身辺自立は出来ていたため、知的障害の支援学級を選択しました。知的であれば、本人の学習進度に合わせて無理なく学校生活が送れそうだったからです。進路を選択する

にあたって、子供の出来ないことにスポットを当てられたようで親は酷がっかりしたり悲観してしまう時期ですが、専門家や先輩お母さんに相談できたことで、その時期を乗り越えられたと思います。



小学校で自閉症・情緒障害学級を選んだ保護者の話

幼稚園の時に、年中の時は1クラス16人→年長になり1クラス27人に増えました。この時に、子供から「今まで聞こえていた先生の声が聞こえない。」と言われました。子供には運動場の声、クラスの中の声、先生の声が同じボリュームで聞こえているようでした。

この話をした時に、主治医から教えていただいたことは、「音の拾う、捨てるが私たちは自然に出来ているが、この子の特性上、集団の中で出来るようになるのは11歳か12歳ぐらいじゃないかな。」ということでした。小学校からは勉強も入ってきますし、子供の成長を考えながら、11歳か12歳には通常学級に行くことを視野に入れた支援学級選択という道を選びました。

通っていた支援学級は自立活動でのソーシャルスキルの授業が充実していたので、「こういう時はどうすれば良いか」ということを授業の中でたくさん学ぶことが出来ていました。そして、先生がいつも近くにいたので、発表も臆することなくできる環境が良かったと思います。



特別支援学校について（にじいろ子育てハンドブックより抜粋）

14 特別支援学校ってどんなところ？

以前、盲学校、ろう学校、養護学校と区別されていた学校です。基本的には、障害の種類（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、知的障害）ごとに分かれています。幼稚部が併設されている特別支援学校（視覚障害、聴覚障害）もあります。多くの学校は、小学部、中学部、高等部の学部が設置されています。

静岡市内の特別支援学校については、静岡県教育委員会のホームページを参照してください。

どんな勉強をしますか？

知的障害のある子ども以外は、通常の学校に準ずる教科や領域を学習し、その他に障害に基づく困難の改善を目的とした自立活動の時間があります。知的障害のある子どもの場合は、基本的な教科の学習（国語、算数・数学、音楽、体育、図工・美術、家庭科など）のほかに、障害の特性に応じた各教科等を合わせた学習（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習など）があります。

通常の学校とのかかわりはありますか？

「交流及び共同学習」という呼び方で、地域の学校や居住地学区の学校とのかかわりがあります。他にも地域の人たちとの交流活動も取り入れています。

体験談（知的障害の支援学校について）



各クラスの人数が少なく、先生が多く手厚い
（低学年7人から8人に対して先生3人）

体調やこだわりなど、子供ごとに合った対応を必要に応じてしてもらえるので安心できる。

障がいやこだわり等で通常ではなかなか難しい校外学習（泊まりでのキャンプや修学旅行など）を友達と共に経験することが出来る。

徒競走を見て、ちゃんと走っていたなと思っていたが、先生から「スタート位置からいなくならず頑張っていました」と予想外のところを褒められ、「そこなんだ…」と学ぶ。

同じ悩みを持つ保護者と情報交換ができ、前向きになりました。生活訓練になる授業があり、普段の生活や卒業後の就労に役立つことが学べました。

中1から、バス通学練習をしました。意外なことに、乗り換えもあるのですが、母親が数回付き添いで、自力でできるようになりました。もちろん、安全のために、位置情報付きの携帯を持たせています。

特性ゆえに、新しい場所や活動は苦手ですが、事前に旅程を文字（ひらがな）で見せて、かつ、行き先観光地などのホームページの写真を見せるなどして、見通しを持てるように工夫しました。

修学旅行後、休憩場所ごとにトイレに行くよう指導されていたこともあってか、やはり必要以上にトイレに行くようになりました。

ゼロか100かの捉え方の特性から、本人自身、臨機応変に調整するのが難しいようです。

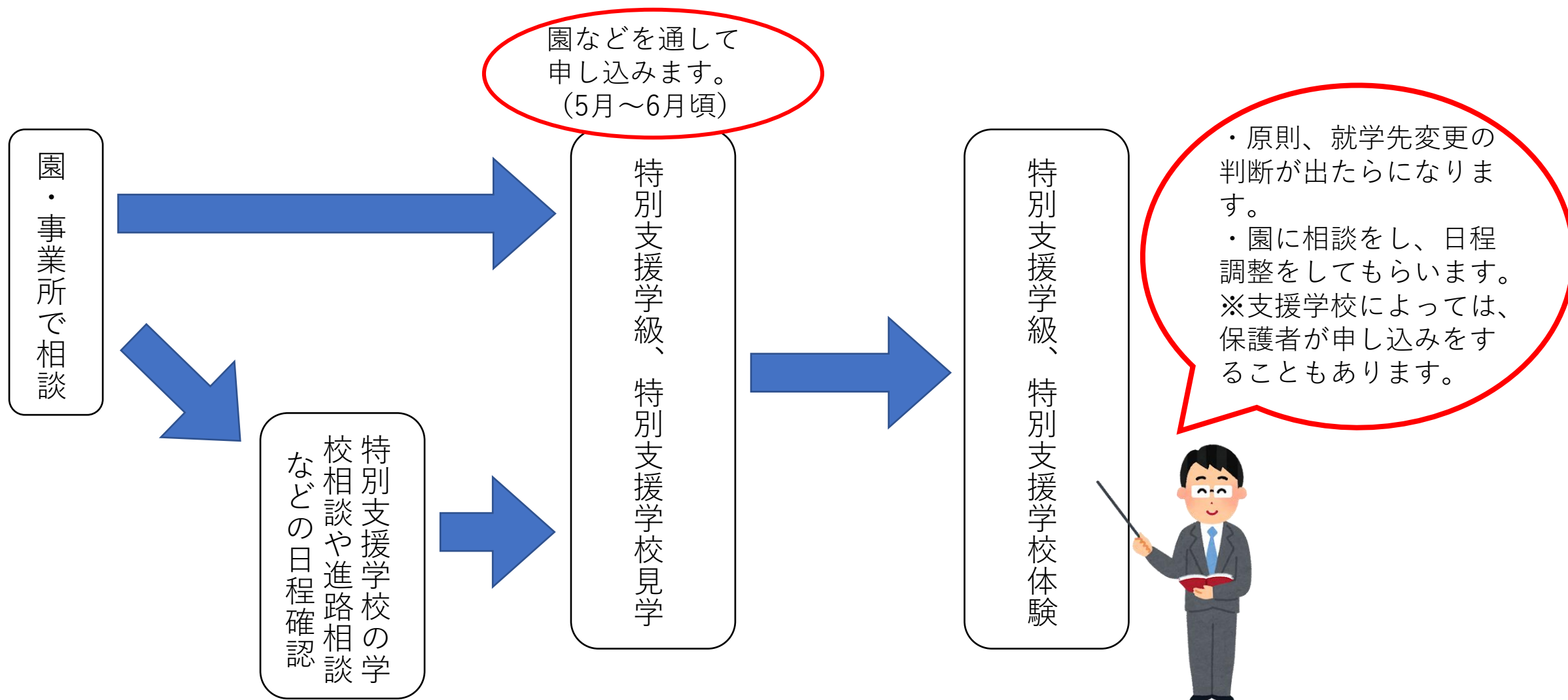
細かい教育支援計画の面談を通して、子供が高等部卒業後の夢や仕事、生活等に近づくような指導をもらえる。

高等部では、就職するまでのサポートが素晴らしい。高等部一年生より企業やA型・B型、生活介護等の実習体験があり、高等部3年生までに何か所か経験することが出来る。そのため、子供により合った就職を選ぶことが出来る。また、実習は就職するまでしっかり面倒をみてもらえる。

家で、よく特定の名前が出てきました。男子、女子、どちらでも当てはまる名前だったため確認すると、女の子の名前だと判明。

高校卒業式の日、校門の前で撮影会となった時、ちらちらある子を見ながら名前を言っているの、例の女の子と分かり、母が声掛けしてツーショット写真を撮ってもらいました。甘酸っぱい！

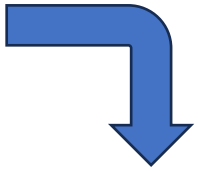
③学校見学・体験について（特別支援学級/特別支援学校）



④通級指導教室について



在籍は通常学級



週に1回
程度

特定なことに苦手があるお子
さんが、それに対する指導を
受けるところ

ポイント



ことば（診断不要）



発達（診断必要）



肢体

葵区：番町小学校、服織小学校

駿河区：南部小学校、川原小学校

清水区：浜田小学校、三保第二小学校

葵区：番町小、西奈南小、服織小

駿河区：宮竹小、川原小

清水区：浜田小、三保第二小、興津小

清水区：有度第一小学校

※市内小中学生対象

通級指導教室の利用を考える場合は、入学後の様子を学校と家庭で共有し、学校と相談してください。

通級指導教室について（にじいろ子育てハンドブックより抜粋）

15 通級指導教室ってどんなところ？

通常の学級に在籍していて、学習は成立しているけれど、特定のことに苦手がある子が、それに対する指導を受けるところです。具体的には、言語の苦手（構音・吃音・言語の発達）、行動面、特定の学習面の苦手（人のかかわり方、自分の感情や行動のコントロール、読む、書く、計算する、推論する）などです。

誰でも通えるの？

まず、お子さんの通っている学校の特別支援教育コーディネーターの先生に相談しましょう。通級指導は学校の授業の一部として受けます。そのため、ご本人や家族の希望だけでなく、通っている学校の意見も必要です。発達通級は診断が必要です。言語通級は診断は不要です。静岡市は肢体不自由の通級（清水有度第一小）もあります。

どこにあるの？（令和6年度現在）

葵区	ことば・発達	→番町小学校
	発達	→西奈南小学校
	発達	→服織小学校
駿河区	ことば	→南部小学校
	発達	→宮竹小学校
	ことば・発達	→川原小学校
清水区	ことば・発達	→浜田小学校
	ことば・発達	→三保第二小学校
	発達	→興津小学校
	肢体	→有度第一小学校

中学校にはあるの？

行動面と学習面の指導の教室が各区の学校にあります。
葵区 → 末広中学校
駿河区 → 大里中学校 南中学校
清水区 → 清水二中学校

教室の勉強とは違うの？ ずっと通うの？

週一回程度、その子の苦手なこと（課題）を個別やグループまたは、その両方で学びます。苦手なことに対する「自分の対処法」がわかったり、できたりしたところで、学校と通級、ご本人や保護者が話し合い、退級が決まります。

体験談



通級の先生と相談して、「夢を語る場所」と本人に伝え通い始めました。学校でのレッテルがない環境で、親子ともに安心・安全な場でした。通い始める前に、学校で一番苦手とする子が通級に通っていると知り、利用自体に躊躇していた時、通級の先生からの「苦手な子から学ぶこともあると思います。私に任せてもらえませんか？」のことで利用することを決めました。苦手なことにも向き合う姿勢も学んだ気がします。実際に、その苦手な子とは仲良しになりました。

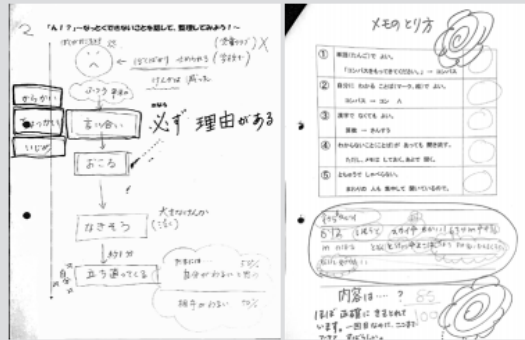


小学校と中学校で、言語指導教室・通級指導教室に通いました。小学校の時は、親が進路や学校とのつながりについて相談し、高学年で退級しました。中学校の時も、進路相談の他、指導方法や、友人関係トラブル、学校との連携について相談することができました。



清水区に初めて発達通級ができた時、一年生で入級しました。当時は先生も保護者も手探りだけど一生懸命でした。その経験が私達親子の土台を作ってくれたように思います。

こんなことをやってもらっていました↓



⑤小学校区の変更について

住宅事情
(転居予定)
(市内転居)
(留守家庭)

小中継続

変更可能区域
(調整区域)

教育的配慮



傷病・心身の
障害

特別支援学級

小規模特認校

兄弟姉妹通学

詳しくは、
指定学校変更制度について：
静岡市公式ホームページ
右記QRコードから
も見れます→



ありがとうございました。

静岡市発達障害者支援センター「きらり」